



あづま球場に決定

東京五輪 野球ソフト会場

復興支援でIIOC



福島市のあづま球場



本県開催決定の電話を受ける内堀知事＝17日午前10時35分ごろ、県庁

2014年12月	福島県の内堀雅雄知事が五輪競技の1次リーグの一部県内開催を東京都の舛添要一知事(当時)に要望
16年8月	国際オリンピック委員会(IIOC)総会が追加種目として野球・ソフトボールなど5競技を承認 内堀知事が野球・ソフトボールの1次リーグの県内開催を組織委員会の森喜朗会長に要望。福島市の県営あづま球場、郡山市のヨーク開成山スタジアム、いわき市のいわきグリーンスタジアムが候補と説明
10月	IIOCのバッハ会長が安倍晋三首相との会談で、五輪の複数種目を東日本大震災の被災地で実施する構想を提案。野球・ソフトボールも「選択肢の一つ」
11月	来日した世界野球ソフトボール連盟のフラッカリ会長が福島県開催に理解。県営あづま球場と開成山球場を視察。大会方式では組織委と異なる見解
12月	IIOC理事会が野球・ソフトボールの主会場に横浜スタジアムを承認
17年3月17日	IIOC理事会が野球・ソフトボールの一部試合の県営あづま球場実施を承認

内堀雅雄知事は17日午前10時35分ごろ、県庁知事室で遠藤利明東京五輪・パラリンピック大会組織委員長

決定の報に知事「成功へ全力」

【平昌共同】国際オリンピック委員会(IIOC)は17日、韓国の平昌で理事会を開き、2020年東京五輪の追加種目、野球・ソフトボールの一部試合を本県で開催する計画について、大会組織委員会が提案した福島市のあづま球場を会場とすることを決定した。東日本大震災の復興支援の後

押しする狙いがある。組織委は、既に承認されていた主会場の横浜スタジアムに加え、施設改修を前提としてプロ野球公式戦の開催実績もあるあづま球場に絞って調整していた。IIOCのバッハ会長も本県で1次リーグの日本戦を実施するアイデアを提案し、被災地で競技を実施する意義を強調していた。本県の会場候補にはヨーク開成山スタジアム(開成山球場、郡山市)といわきグリーンスタジアム(いわき市)も挙がっていた。

代行から開催決定の電話を受け、「福島開催、東京五輪成功に向けて全力で取り組んで参ります」と伝えた。内堀知事は「復興再生を進め、県民が(五輪を)笑顔で迎えられるよう開催承認を重く真剣に受け止めている」とした上で「本県での野球・ソフトボール競技開催を感謝と復興の発信の貴重な機会として、復興五輪のシンボルの一つにした」と大会成功に意欲をみせた。県は21日に県庁西庁舎前県民広場で、県内開催決定を記念したセレモニーを開催する。